

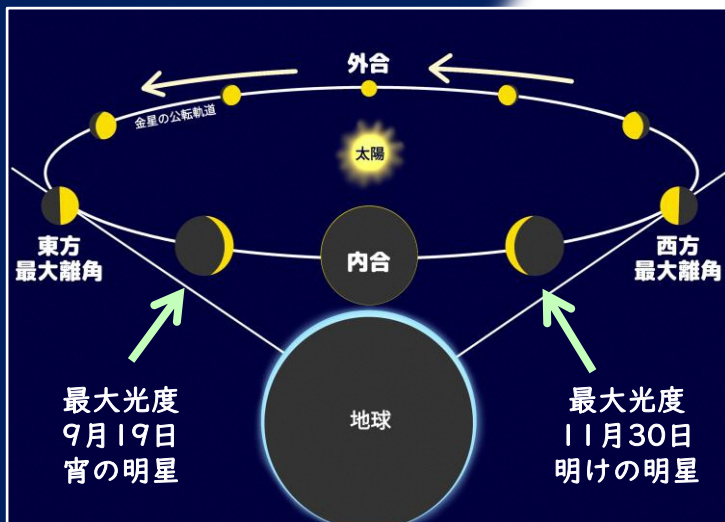


最大光度の金星をみよう！

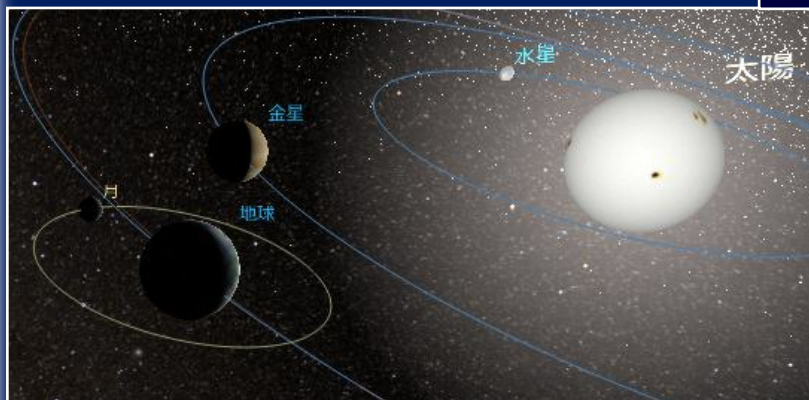
金星は太陽系の惑星として、地球より内側の公転軌道上を地球とは異なる速さで進んでいる。

地球と金星の距離が変わるためみかけの大きさが変わり、太陽との位置関係で満ち欠けをしているように見える。

このため、地球から見える金星の明るさが変わる。今年9月19日と11月30日に最大の光度を迎える。その明るさはそれぞれマイナス4.8等級、4.9等級であり、1等星の約100倍となる。



地球から見た金星の動き©松谷



2026年9月19日の地球、金星、太陽の位置関係（国立天文台ソフト Mitakaにて作成）

☆チャレンジしよう！

最大光度のころの金星は、青空の中にかくれているのを肉眼でみつけられる人もいます。太陽をみないように気をつけて、針の穴ほどのとても小さい点を、さがしてみよう！



最大光度前後の金星（Stellariumにて作成、観測地は弘前市天文台）

次回の観察会

【9月25日（金）】
18:00～22:00
（最終受付 21:30）

テーマ
「中秋の名月」

最大光度前後の金星をシミュレーションしてみた。（上の図を参照）金星はどんどん地球に近づき大きくみえるようになるが、形が三日月のように欠けていくことがわかる。

10月22日には内合となり、太陽—金星—地球が直線上にならび、新月のように金星がみえなくなる。

11月以降は明け方の東の空に見えるようになる。